いたちかわらばん

通刊49号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　'10 春号

【版画　宗森 英夫】　本郷橋周辺の欅並木（対岸の建物は本郷小）

いたち川と時の流れ

春になると桜並木の花びらを水面に浮かべ、いたち川は賑わいます。思えば、昭和三十年代に大規模な住宅開発が行われた後に移り住んできた区民が年を重ねた今、昔のいたち川の様子を話しあうようになり、時の流れを感じます。

いたち川は昔はどこをどのように流れていたのでしょうか。鎌倉郡〇〇村と記録されていた頃の川の様子は今とは違っていたでしょう。人々の考え方や行動も今とは異なっていたでしょう。

明治二十二年の市政施行により横浜市が誕生した当初は市域は面積五平方キロ余りで、人口十二万余りでした。その後の編成替えや埋め立てで現在横浜市域は面積四百三十五平方キロ、人口三百六十七万余りと巨大化していますが、今の栄区の面積十八平方キロ、人口十二万余りと比較するとその頃の状況が想像できて解ってきます。

いたちかわらばん編集部では昔の地図を参考にしながら、いたち川の流れがどようになっていたかを古い地形図を元に調べてみることにしました。これから三～四回の特集記事で調べた結果をお知らせしたいと計画していますので、昔のいたち川を知っている方、こんなことがあったと教えてくださる方、いたち川を知りたい方、ご一緒に調べてみませんか？　いたち川おたすけ隊までご連絡ください。

（文中の面積、人口は統計資料より）（うぐいす）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です

『いたち川知り隊パート 2』

２月６日（土）いたち川ＯＴＡＳＵＫＥ隊では「さかえ　なんでも知り隊」の一環として「いたち川に来る冬の野鳥を観察しよう！」というテーマで、栄区在住か在学の小学生の親子を対象としたイベントを開催しました。昨年７月に扇橋の水辺を中心とした魚・水生昆虫・植物観察・水質調査につづいてのパート２です。

参加してくれたのは親子合わせて２６人。はじめに、「いたち川は３０年ほど前までは生き物のほとんどいない３面コンクリート護岸の用水のような川だったのを、多自然工法という当時世界でも先駆的な工法で改修し、現在のように魚や水生昆虫や野鳥が集まる自然に近い状態に変えたことで海外にも名を知られた有名な川です。みなさんでこのすばらしい川の環境を護って行きましょう。」という説明がありました。その後、２班に分かれて出発。

いたち川に出るとすぐハクセキレイが目の前のプロムナードを歩いていました。やや長めの尾羽を上下に振りながら人間のように左右の脚を交互に出して歩く（ウォーキングといいます）あまり人を怖がらない鳥です。水辺だけでなく公園や住宅街の道路なとでもよく見かけますからご存知の方も多いでしょう。ちなみにスズメのように両足を同時にピョンピョン歩くのをホッピングといいます。多くの鳥はそのどちらかですが、ごく身近な鳥ではカラスだけが両方の歩き方をします。

川辺に出て大いたち橋のところではスズメに混じってカワラヒワの群れ。その名のとおり広い河原では数十羽の群れで行動するので目立ちますが、住宅街でも数羽の小群をよく見かけます。一見するとスズメに似ているので気づかない人が多いのですが、陽射しの下で飛ぶと両翼の鮮やかなレモン色が美しい鳥です。飛ぶときにキリリキリリとかわいい声で鳴きながら飛ぶのも特徴です。ただし、初夏の繁殖期になわばりを主張するときは単独で電線などにとまり、ただ「ジー」と大声で小鳥とは思えない無粋な鳴き方をします。

コースは区役所から天神橋まで上り、Ｕターンして柏尾川との合流の手前のいたち川橋まで。約３時間かけてじっくり観察しました。途中の電線に２種のカラスが並んでとまっていたので、くちばしが太くおでこが出っ張っている方がハシブトガラス（ブト）でくちばしが細くおでこが目立たない方がハシボソガラス（ボソ）といって別々の種であることを説明しました。本来農耕地に多いのがボソでブトは森林や市街地に多いといわれますが、いたち川周辺ではほぼ同数が混在しています。カラスは鳥の中では飛びぬけて頭が良く、チームプレイで倍以上も大きい猛禽類（ワシやタカ）にもひるまず挑んで餌を横取りしたり、クルミを道路に落として自動車に硬い殻を割ってもらって食べるというような知恵もあります。また、飼育環境ながらそのままでは届かない餌をまっすぐな針金をフック状に細工して取り出したというオックスフォード大学の研究者の報告もあります。

というように鳥の名前だけでなく特徴や習性や見分け方などの話を交えながらゆっくりと歩きました。同じ種の鳥を何か所かで繰り返し見られたので、かなりの種を覚えてもらえたのではないでしょうか。

最後に笠間町公園で鳥合わせ（探鳥会では最後に参加者がその日に確認した鳥を報告し合う習慣があります）をして解散しました。この日確認できたのは、コサギ、ゴイサギ、アオサギ、マガモ、コガモ、カルガモ、トビ、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イソシギ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバトの２３種（順不同）。このうちいたち川周辺で冬鳥にあたるのはのマガモ、コガモ、ツグミ、アオジの４種だけで残念ながら前号（通刊４８号）で紹介したオナガガモはいませんでしたが、通常この時期に見られる鳥のほとんどを確認できたのではないかと思います。

野鳥に限らず「雑草」とひとくくりにされるような路傍の草でも名前を覚えるだけで他と区別出来て急に親近感のようなものを感じるものです。参加してくださった皆さんには、今日覚えた鳥をきっかけに野鳥や自然への興味や関心を少しでも深めてもらえればと期待しています。　（一竿）

発行年月
2010年3月
通刊49号

発行：独川ＯＴＡＳＵＫＥ隊（いたちがわおたすけたい）
ＯＴＡＳＵＫＥ隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260
栄土木事務所下水道・公園係　〒247 - 0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1- 6 -1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

いたち川の幻の水源を探る　ー その１ー

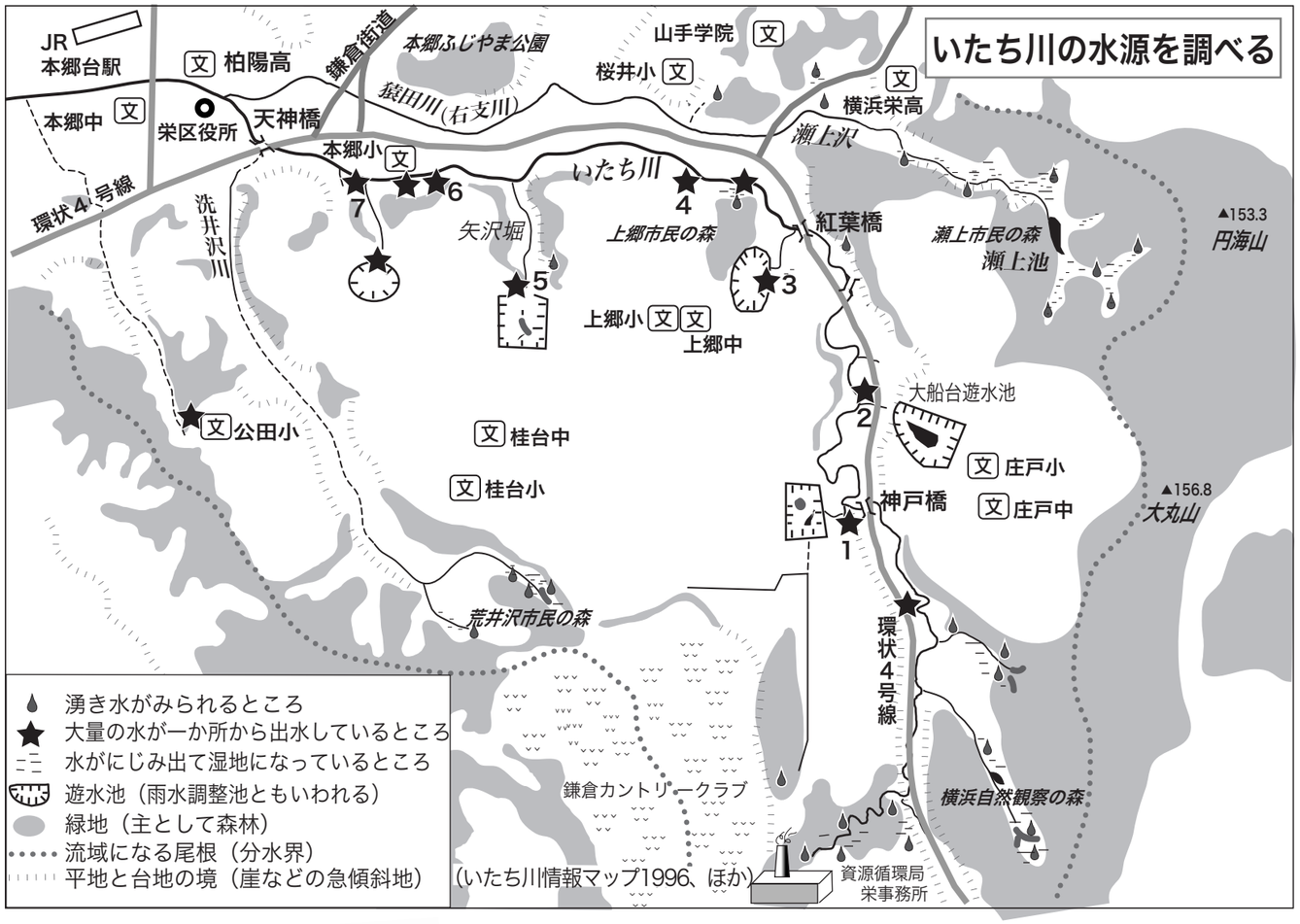
ここに取り上げた地図は今からおよそ２０年前、栄区が、いたち川の情報地図づくりをすすめるために「いたち川 OTASUKE 隊」を結成し、応募によって集まった１０数名の隊員が、川の生き物、地域の歴史、水源の探査、水質調査からゴミや排水の問題など、様々な角度からいたち川を見つめ、およそ３年をかけて情報収集活動をして平成８年に発行した「いたち川情報マップ一鼬川一」の中に掲載した「いたち川水源マップ」に一部加筆・修正したものです。いたち川情報マップは、その後「いたち川散策マップ」と名前を変えて現在に引き継がれ版を重ねています。

この水源マップに示されている中の★印の箇所は大量の水が地中の導水管を通っていたち川に流れ出ている所を示していますが、この箇所が本当の水源ではありません。宅地造成によって埋められた谷や小川や田んぼの水が導水管に集められて川や遊水池に流れ込んでいるのです。したがって本当の水源は地中深くに隠されていることになります。それでは造成地の下に埋められた地形はどんな状況で、何処が谷戸であり、何処に田んぼがあって、何処に小川があったのか知りたくなりました。そこで、この地域に宅地造成の波が押し寄せる以前の古い地形図を利用して、水が流れていた小川や田んぼなどを地図によって探し出そうというのが今回の試みです。

本題の水源を探る前に、この地域の全般的な自然環境を概観してみたいと思います。いたち川の上流の上郷地域が宅地になる以前の地形図を手元に置いて地形と土地利用を観察しますと、いたち川流域の低地以外は標高５０～８０ｍの台地状の山地が森林に覆われ、平地らしき所はあまり見られません。いくつかの小さな小川が台地を削って小規模の谷戸を造り水田になっているのが読みとれます。山頂部の比較的平らな所や緩やかな斜面は畑等に利用されていたようです。自給のための農業と林業による収入が生活基盤であったのではないだろうかと推察されます。地域の産業構造は農業地域というよりも林業地域ではなかったかと思える厳しい自然環境が読みとれます。

水源に話を戻しますと、上郷地区のなかで流出量の特に多いところを上流部から取り上げると、神戸橋近くの流出地（図中★１）、庄戸住宅近くの大船台遊水池（★２）、第百ゴルフ練習場脇（★３）からの流出、坊中の水辺の南斜面（★４）、矢沢堀上流の遊水池（★５）、本郷橋（★６）と桂橋近く（★７）の導水管からの流出などがあります。これらの箇所について特徴づけられる共通点は、背後に大規模な宅地造成地があることです。例えば、神戸橋近くの流出地の場合は上之町、野七里、犬山町の広い住宅地が背景にあり、大船台遊水池の場合は庄戸、東上郷の住宅地が、矢沢堀上流の遊水池の場合には背景に桂台住宅地があるように、いずれの場合にも背景に大規模な造成地があります。これらの大規模な造成地の下には小川があり、田んぼが存在していたはずです。今年はこの地域を３～４回に分けて地中の幻の水源を旧い地形図を元に探り出したいと思います。意外と面白いかもしれません。俺の家の下は田んぼだったんだとか、畑だったんだとか、思わぬ新発見があるかも。でも正確性を問われますと、疑問です。私の見ている昔の地図は縮尺 5000 分１なので地域の概観を見ることが出来るに過ぎません。しかし水源となっているおおよその地形は読みとることが出来るはずです。

（ワンダー谷渓）



左：いたち川情報マップ
初版発行　平成８年８月（1996 年）

写真上：坊中の水辺、南側の茂みの中の導水管から大量の清水が出ています。（図中　★4）

写真右上：本郷小学校の裏手、左岸の石垣の中から出ています。（同　★6）

写真右下：桂橋の近くで見られる流出地。（同　★7）